




コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：京都ヴィジターズ 代表者職名・氏名：代表 服部 均
補助事業テーマ	多自然圏体感施設 【 廃校活用 × 車中泊旅 】プロジェクト
事業実施期間	令和2年10月12日 ～ 令和3年2月28日
事業の目的	① 廃校(旧小学校)をリノベーションして、多自然圏体感施設として運営事業を目指す。 ② 話題の車中泊(バン・キャンピングカー)需要を取り込み、集客をしながら地方を活性化させる。 ③ コロナ禍において車と小単位のメリットから、人と人の距離を保ちながら移動したり、旅もできる拠点づくりによる京都府への経済効果を計る。
事業の実績(成果)        	[実施した取り組み] 下記モニター調査を実施 ◆体験編アクアビティセットの車中泊モニターツアー調査を実施 京北町のコンテンツ協力会社と組みアクテビティ(大自然バギー走行・木工時計づくり)体験のセットモニター調査を実施した。 ◆学習編アクアビティセットの車中泊モニターツアー調査を実施 宇治市炭山のきこりの会の協力のもと、山暮らし学習を組み合わせてのモニター調査を実施した。 ① コロナ禍ゆえ住民への賛同は今は得られなかった為、まずはもう少し住宅街ではないエリア及び小規模での事業可能性モニター調査を実施した。 京都府綾部市の廃校活用施設(里山ねっと)にて、プロジェクト案は一部実行できた。 ② 立地に縛られず移動可能な車中泊の活用によって、 1) 新しい地域資源の発掘→農林地資源を観光体験として発掘できた。 2) 観光体験・旅体験の構築→新しい旅スタイル・旅体験を提供できた。 3) 複数の魅力的なエリアの選定→観光地でないエリアでも宿泊可能。 ③ 交通機関での移動は三密になりがちなので、コロナ禍においても安心安全な旅ができる。「日頃のコロナストレスから解放できた」との参加者の声あり。 ・車で泊まるので宿の予約から解放、浮いた旅代を地域(食事、体験、土産など)への経済効果が見込まれます。
今後の展望	・コロナ禍におけるくるま旅は“新しい旅スタイル”としてだけでなく、ワーケーションなどの“車中泊のビジネスニーズ”と共に時流に乗っている。 ・さらなる波及効果を継続するために、安心安全に過ごせるための24時間トイレ、入浴施設、電源、ゴミステーションなどの設備が充実していて、地産品購入もできる道の駅(国交省)との連携が理想である。